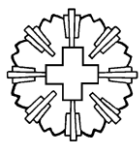


米沢市立病院 地域医療連携室だより



編集 米沢市立病院事務局地域医療連携室
〒992-8502 米沢市相生町6番36号
TEL(0238)22-2450(代表) (0238)22-2613(直通)
FAX(0238)22-2624
URL <http://www.yonezawa-city-hospital.jp/>

2023

令和5年1月

Vol.

42



雪上から望む建設中の新病院

撮影：地域医療連携室

特集

年頭のご挨拶
訪問看護ステーションつむぎの閉所について
新病院における三友堂病院との医療連携

Topics

新病院建設の現場風景

冬号

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。病院も診療所も新型コロナウイルス感染に振り回され、大変な努力を強いられ、本当に当院の地域医療連携に変わらぬご理解とご協力を賜り、心から感謝しております。当院は2020年に地域支援病院になってからも地域連携の問題点に関して定期的に検討し、改善に取り組みしております。何か不都合やご意見があればいつでも連携室に連絡下さい。

今年、新病院開院後の紹介・逆紹介システム、病院から診療所への逆紹介のさらなる促進、電子処方箋の導入、などが地域連携のテーマになると考えています。新病院では基本的に紹介患者さんのみの診察になること、病状が安定したら近くの診療所に通院していただくことを市民に丁寧に説明していきます。

米沢市開業医の数が今後減少してゆく現状も重々承知しておりますが、何卒ご協力ください。

時の流れの中で急激に変化してゆく医療情勢に何とかついて行けるよう努力を継続してまいりますので、今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。



副院長
兼地域医療センター長
佐藤 洋一

明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染が日本で確認されてから、早三年が経ちました。死亡率は低下したものの亜系統の置き換わりが進み、新規陽性感染者は減少する気配がみえない状況です。こうした中、政府は5月8日に5類感染症に移行することを決定しましたが、様々な課題が解決されおらず、医療機関の逼迫状態が改善するとは考えにくいです。これに追い打ちをかけているのが、ロシアのウクライナ侵攻です。資源価格の上昇を主因にインフレが進み、当院の新病院建設にも多大な悪影響を与えています。

しかし、困難な状況だからこそ、置賜地域の住民数を考慮すると、医療機関の協力がなければ安定した医療を提供できなくなってしまう。そのためには、役割分担をさらに明確化し、救急医療を生かしたネットワークの強化を進め、回復期・慢性期・在宅医療において連携を深め、紹介率を上げることができれば、住民も安心して生活することができ、病院・医院の経営の安定化も図ることが可能と考えます。変わらぬご支援よろしくお願い致します。



統括副院長
松本 幸夫

新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の渦中で、第七波・第八波と予測しにくい事態が次々と押し寄せ、常にどう行動するかと問われ続けた年でした。看護部では「みんなで乗り越えよう」という方針のもと、それぞれの部署が協力し合って過酷な日々に向き合い頑張ってきました。その活力になったのが地域の皆さまや患者さんご家族からの温かい励ましと支えでした。心より感謝申し上げます。

令和五年十一月には新病院が開院いたします。地域医療機関とより一層の連携を推進しながら、地域に親しまれ、地域から愛される病院でありたいと考えています。

これからも末永く、この地域で求められる医療を行い、社会に貢献する病院であり続けたい、そして、職員一丸となり、患者さんとそのご家族に寄り添った看護が届けられるよう邁進して参ります。どうぞ、よろしくお願いいたします。



副院長兼看護部長
竹田 恵美子

明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たぬまま新年を迎え、新病院開設の年を迎えました。新病院へのスムーズな移行に際し、地域の皆様方にはご理解、ご協力をお願い申し上げます。

医療安全の面からは、極めて限られたマンパワーで設備の整わない中での新型コロナウイルス感染症対応は、病棟再編や不定期な職員の勤務移動など数々の問題を抱えながら、職員の精一杯の努力を支えられ継続しております。日々起こるインシデントに対してきめ細かい対策を行い、アクシデントに繋がらないように努力、精進する日々です。

加えて、来年には医師に対する働き方改革の施行が始まります。この改革は当院の様に医師数が限られる病院にとって、非常に厳しいものとなります。さらには様々な形で支援を頂く大学病院、他院の人的支援にもこれまで以上に無償さが予想されます。新病院では当院が地域の急性期医療、救急医療を担う事になります。システムとして如何に地域の医療を守るのか、病院のみならず医療を利用される地域の皆様にとっても重大な問題と考えます。より一層のご支援を頂きますようお願い申し上げます。



副院長
兼医療安全管理部長
長岡 明

訪問看護ステーションつむぎの閉所について

訪問看護ステーションつむぎは平成 28 年 10 月より事業を開始し、令和 4 年 11 月末時点でがん終末期や医療的ケア児、医療依存度の高い方・高齢で独居の方など幅広く 508 名の方が利用されました。

令和 5 年 11 月の新病院開院に伴い、3 月末で訪問看護ステーションつむぎを閉所することになりました。利用者の方が今後も安心して在宅療養ができるよう、三友堂訪問看護ステーションをはじめ地域の各訪問看護事業所に訪問看護を引き継いでいただいております。在宅という生活の場において看護することは、その人らしい暮らしが継続できるように寄り添うやりがいや喜びがありました。

これまで多くの医療関係者・地域の事業所の方々に支えていただき事業を継続することができましたこと、心より感謝申し上げます。



米沢市立病院訪問看護ステーションつむぎ 管理者 佐藤夏月

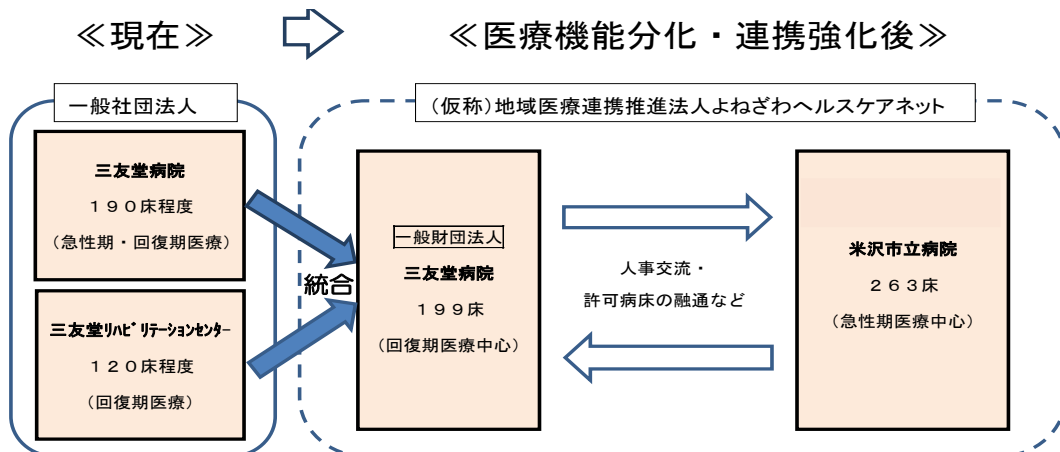
新病院における三友堂病院との医療連携

11 月に開院する新病院では、三友堂病院との間でさまざまな分野での医療連携を計画しています。急性期を担う米沢市立病院、回復期を担う三友堂病院、ふたつの病院がそれぞれの機能や役割を明確にした連携を行うことで、患者さんが急性期から回復期を経て自宅に戻るまで、安心して質の高い医療サービスを受けることができる体制を目指しています。(下図参照)

機能	市立病院	三友堂病院
高度急性期・急性期医療	○	
回復期・在宅医療		○
救急	○	
化学療法	○	
慢性維持透析	△(急性期は実施)	○
在宅医療(訪問看護等)		○
健診・人間ドック	△(2次健診は実施)	○

また、医療連携をより強固に約束するために、開院と同時に「(仮称)地域医療連携推進法人よねざわヘルスケアネット」を設立する予定です。

設立時点では 2 病院のみでの組織となりますが、将来的には地域の他病院、診療所(かかりつけ医等)、在宅支援診療所や調剤薬局の皆様にもご参加いただけるような組織を目指し、参加法人がお互いをサポートしながら米沢の地域医療を守るネットワークの構築に取り組んでいきます。



新病院建設の現場風景（建設事務所）

工事現場には、現場事務所が2か所あります。

1か所は、敷地外にあって関係する企業が事務作業をするために設置したプレハブで、内藤建築事務所（設計者）やフジタ・後藤組・中村建設特定建設工事共同企業体（施工者）の事務所が入っていて、30人以上入れる会議室も備わっています。

【事務所外観】



【会議室】



もう1か所は、工事区画内にあって主に現場作業員のために設置したプレハブです。

こちら事務所内に同じくらいの規模の会議室を備えています。会議のほか作業員が休憩や食事に使ったりもしています。作業員の福利厚生のため、事務所内にそば店が出店され、自動販売機も設置されています。

【事務所外観】



【会議室】



【そば店】

